

# 魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名：藤原 佳美

所属：東京都立八王子西特別支援学校高等部

貸与機器（使用機器）：iPad mini / iPad

## 【対象生徒の情報】

- ・学年／年齢：高等部2年生／17歳
- ・障害名：知的障がいを伴う自閉スペクトラム障害
- ・困難の内容：コミュニケーションにおける相手側からの受信と自分からの発信について

## 【活動目的】

【今年度の学習目標】 インクルーシブ教育の実践

対象生徒は現在、高等部2年生であり、高等部卒業後は社会に出ていく。小学部、中学部、高等部と、特別支援学校に所属し、特別支援学校の一定の構造化された環境の中で生活してきた対象生徒が、社会で多様な場所、人と共に生活していくことを考えた時に、インクルーシブ教育の実践は、対象生徒にとって、非常に重要なものであると考え、実践をスタートさせた。

私たちは障害の有無に関わらず、「社会でいきいきと生きる」して生きることが目標である。

最近では駅や様々な公共施設などでは構造化がとて進んでおり、見れば分かる安心設計なものが非常に多くなってきて、物理的な構造化にはどんどん進化しているが、一方で、人と人との関係においては、どうしてもある程度の社会的スキルが求められる。そこで、対象生徒が今後「社会参加」して生きていくために必要な力をインクルーシブ教育の中で実践しながら育てていきたいと考えた。

同じ時に同じ場所に「ただ一緒にいるだけ」ではなく、お互いを支え合い、共に育っていけることが必要であると考え、以下の3点について研究を進めてきた。

### (ア) 当初のねらい（計画書の学習目標）

#### ①相手の発信を受信し、返答する力。

→日常的に身近な質問から少しずつ始めて、少しずつ相手からの問いかけに対応する姿勢とスキルを育てていきたいと考えた。相手からの問いかけに対して、理解が難しい時には、「分かりません。」という表現も教え、発信側も受信側もお互いに歩み寄ろうとする姿勢を育てていきたいと考えた。

#### ②自分の考えを伝える力

→自分の状態や考え、体験したことなどを、三～四語文で答えることができるよう指導していきたいと考えた。相手も伝える手段であるが、音声言語、文字盤の併用、ICT 機器など、選択肢が複数ある。その活用について、こちらが指示しなくても自分で伝わりやすい手段をモード替えし、周囲とやりとりできるようになることを目指した。それにより一歩通行ではない双方向のコミュニケーションを成立させていこうと考えた。

#### ③「引き継げる」支援の獲得

→対象生徒は、生涯にわたって適切な支援を受けることで、持っている能力を発揮し、「社会参加」できると考える。一定の関係のある人は、対象生徒からの発信をかなり正確に聞き取ることができるが、初めて対象生徒と関わる人や関係が浅い人にとっては、対象生徒の発信を聞き取るとはとても難しく、早い時期に互いに関わることに難しさが生じる。インクルーシブ教育の実践を通し、常に多くの人にとって「関わり方」のヒントになるような媒体を ICT を活用して作っていこうと考えた。

### (イ) 活動を実施した期間

2023年5月～2月

(ウ) 活動の実施者

藤原 佳美

(エ) 実施者と対象生徒との関係

クラス担任／教科「国語」「数学」「情報」担当

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### (ア) 対象生徒の事前の状況

<学習目標①「相手の発信を受信し、返答する力」について>

対象生徒は、出会った当初（中学部時代）は人とやりとりには興味・関心がほとんどなく、挨拶をしたり話しかけても目を合わせることはなかったが、この2年間、少しずつ信頼関係を築くことで、対象生徒の方からこちらに働きかけてくるのが非常に多くなった。「藤原先生、～線（さまざまな鉄道名）」、「藤原先生、20△△年（さまざまな年号）」など、毎日のように声をかけてくる。しかし、こちらから対象生徒に問いかけても、返事がもらえることは少なかった。

<学習目標②「自分の考えを伝える力」について>

対象生徒は自分が体験したことや、起こった事実、体の調子などについて、言葉で伝えることが難しい。国語の授業や日常生活の指導の中で選択肢を用いて感情の言葉についてどの程度理解があるか調査中である。

対象生徒は、拒否したり否定したり嫌悪を示す場合について、すべて「いない」という言葉を使用して表現する。気持ちや様子を表す表現については、非常に語彙が少ない印象を受けた。

<学習目標③「『引き継げる』支援の獲得」について>

対象生徒は言語化に難しさがあるが、とても豊かな内面を持っている。興味がある内容は自ら貪欲に知識を吸収しようとする知的好奇心も非常に旺盛である。しかしながら、初めて会った人や関係が浅い人にとっては、大きな独り言を言ったり、突然歌いだすなどして、関わること自体が難しいと思われがちである。

### (イ) 活動の具体的内容

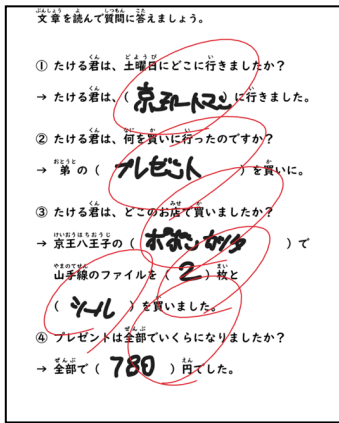
私と対象生徒との関わりは、クラス担任として日常生活の指導での関わりと、国語、数学、情報、作業学習で指導に当たっている。グループ学習における一斉指導のため、個別に深く指導に携わることは難しいが、毎日コンスタントに関わることができる。今年度の学習目標それぞれについて、活動内容を具体的に述べていく。

<学習目標①「相手の発信を受信し、返答する力」について>

主に週に3時間ある「国語」の教科学習で実践した。対象生徒は視覚情報が優位であり、聴覚のみの発信では反応することが難しい。そのため、まずは視覚的な情報で提示し、やりとりできるように実践中である。具体的には、国語の授業の中で、映像等を提示し、それについての質問を課して



(ウ)




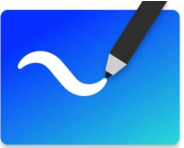
【文章を読んで答えを探す】

目の前のモニターに大きく映し出される文章から、問われている内容を探して答える活動である。

- ①問題文を読む。
- ②問われている内容を頭に留める。
- ③文章を読む。④問われている内容を探す。
- ⑤答えを入力する。

上記の5つの動きが必要とされるが、対象生徒はほぼ正確に答えることができた。質問文を音声言語にした際には、複数回の言葉かけが必要な場合が多かった。

以下は、使用したアプリと活動内容、使用頻度などを表にしたものである。

使用したもの	活動内容（時間帯や頻度含む）
iPad のアプリ  [Keynote]	使用頻度：毎週月・火・金のグループ国語の授業で使用。 使用方法：国語の教材の中に、「見て聞いて答えよう」という単元を組み込み、情報の受信と発信に取り組んだ。 この[Keynote]では、提示用の視覚教材を作成し、プロジェクターを用いて大きく提示して使用した。視覚情報優位な生徒なので、毎回しっかりと教材を見て答えることができた。
iPad のアプリ  [Microsoft whiteboard]	使用頻度：毎週月・火・金のグループ国語の授業で使用。 使用方法：国語の教材の中に、「見て聞いて答えよう」という単元を組み込み、情報の受信と発信に取り組んだ。 この[Microsoft whiteboard]では、ワークシートを作成し、生徒たちが個々で所有するスマートスクール端末 (iPad) で開いて入力した。対象生徒も端末を上手に操作して入力を行っていた。

<学習目標②「自分の考えを伝える力」について>

対象生徒は、この数年で「伝えたい」という意欲が非常に高まっている。文脈に沿った言葉の場合もまれにあるが、大抵は、鉄道関係や年号の単語などについてである。しかし、これはコミュニケーション能力における大きな可能性であると私は捉える。そこで私は、できるだけ対象生徒からの自発的な発声を受け取り、レスポンスしていくことを心掛けている。最初は小さなつぶやきだったものが、今現在では、「藤原先生、～（鉄道関係や年号の単語）」になった。ただ、自分の状態や起こった出来事、感じたことについては、表現することが難しい。そこで、毎朝登校後の「日常生活の指導」の時間に実践を行った。以下が実際に使用した教材と対象生徒の回答画面の一例である。

**朝の課題**

今日の目付 令和5年7月11日 曜日  
今日の天気 (晴れ)

今日の時間割

1	日常生活の指導
2	保健体育
3	国語
4	数学
5	音楽
6	体育
7	英語
8	日常生活の指導
9	下校(時間 15時 5分)

先生からもらったカード

① 荷のカードをもらいましたか?  
はい(ハッポ)のカードをもらいました。

② 音楽先生の靴下の色は何色ですか?  
音楽先生の靴下の色は(黒)色です。

③ 昨日のおご飯は何を食べましたか?  
僕は(うどん)を食べました。

④ 音楽先生のマスクの色は何色ですか?  
音楽先生のマスクの色は(黒)色です。

⑤ 先生のお父さんの名前は何ですか?  
先生のお父さんの名前は( )です。

**朝の課題**

今日の目付 令和5年7月11日 曜日  
今日の天気 (晴れ)

今日の時間割

1	日常生活の指導
2	保健体育
3	国語
4	数学
5	音楽
6	体育
7	英語
8	日常生活の指導
9	下校(時間 15時 5分)

先生からもらったカード

① 荷のカードをもらいましたか?  
はい(ハッポ)のカードをもらいました。


② 音楽先生の靴下の色は何色ですか?  
音楽先生の靴下の色は(黒)色です。

③ 昨日のおご飯は何を食べましたか?  
僕は(うどん)を食べました。

④ 音楽先生のマスクの色は何色ですか?  
音楽先生のマスクの色は(黒)色です。

⑤ 先生のお父さんの名前は何ですか?  
先生のお父さんの名前は( )です。

【朝の課題】

使用したもの	活動内容(時間帯や頻度含む)
iPad のアプリ  [Microsoft whiteboard]	使用頻度：毎朝登校後の「日常生活の指導」で使用。 使用方法：毎日、自分の一日の流れを入力する枠に加え、さまざまな質問文を準備して朝の活動で取り組んでもらった。見ればすぐ答えられる簡単な質問から、指名した人に自分で質問しないと答えられないような質問も少しずつ増やしている。

### (ウ) 対象生徒の事後の変化

<学習目標①「相手の発信を受信し、返答する力」について>

視覚情報で対象生徒に発信した場面では意識をこちらに向けて取り組めることが多いことが分かった。また、「できた」→「ほめられる」→「意欲が高まる」を繰り返すことで、学習に対してポジティブな姿勢が育ちつつあるように感じる。

対照的に、対象生徒は聴覚情報だけでは、意識を相手にこちらに向けることがなかなか難しいことが分かった。しかしながら、すべての指示や会話を視覚情報だけで支援していくことは現実的ではないので、今後は学習目標③の今後の取り組みにつなげていきたいと考えている。

<学習目標②「自分の考えを伝える力」について>

実践を始めた当初に比べると、自分についての質問に対して答えようとする姿勢は育ったように感じる。しかしながら対象生徒の内面にある「感情」などについての質問は、言語化することが難しい。例えば対象生徒にとっては、拒否や否定、嫌悪の感情を表す言葉は「いらない！」の一言だけである。そこでコミュニケーションが断絶されてしまうことが非常に残念である。今年度の実践中にどこまで習得できるかは未知数ではあるが、いずれは「～なので、・・・です。」や「・・・です。なぜなら～」のように、簡単な理由を表現できるようになるとコミュニケーションの幅が広がるのではないかと考えた。インクルーシブな環境の中で、「いらない！」で終わってしまうことがないよう、さまざまな状況を設定し、表出の積み上げを行った。

# 報告者の気付きとエビデンス

## 主観的気づき

対象生徒は、日々の実践を通して周囲への意識が高まり、自分から積極的に周囲に向かって発信しようとする姿勢が多く見られた。インクルーシブな環境においては、まだ一方通行の表出ではあるが、自己刺激行動から他者への発信が格段に多くなった。また、表出言語におけるやりとりはまだまだ課題が残っているが、iPadなどのICTツール等を使い視覚的に対話を設定することで、周囲からの発信を受信して、自分の答えを発信できることが多くなった。

今年度の実践を通して、対象生徒の持っている語彙力やあらゆる物事への概念についてデータを取ることができたので、来年度以降はそれらをデータベース化して、対象生徒がそれを所有し、学校内や現場実習、また、インクルーシブな環境の中で必要な表現を表出できるようになる研究を実践していきたい。

## エビデンス(具体的資料)

主に毎朝の課題で行った内容を単元ごとに具体的資料をして提示する。

### <学習目標①「相手の発信を受信し、返答する力」について>

#### 単元【質問に答える】

##### 実践当初

表現しよう ~質問に答えよう~

課題が終わりました。

● できました

課題が終わりました。

● わからないおれえでください

課題が終わりました。

● ぬてて

課題が終わりました。

● iPadと紙で

課題が終わりました。

● 声をだしたいです

朝の課題 【質問に答える】

~当初~

①質問内容を一緒に確認する。

②教員がお手本を示す。

③一緒に読む。

④自分で回答欄に書き込む。

上記の手順が必要であった。自力で回答するためには、もう少し課題を細分化する必要があった。



##### 課題の細分化を実施

質問に答えてみよう。

①この土日は何をしましたか？図してみよう。

僕は、

○  で過ごしました。

○  学校でみんなと一緒に過ごしました。

○  出かけました。

○  聖殿坂コーゴに行きました。

②私が好きな時間は、**小さいとき**

・学校で (**iPad**) をしている時

・  で (**ゲーム本**) をしている時

・お父さんと (**指原駅**) している時

③  の先生で、一番好きな先生は、**原**先生です。

理由は、とても**おもしろい**・**やさしい**からです。

質問に答えてみよう。

①正しいものに○、まちがったものに×を書こう。

○ 修学旅行は大阪に行きました。

○ 修学旅行は京都に行きました。

○ 修学旅行は名古屋に行きました。

②( )にあてはまる言葉を入れてみよう。

・お父さんは(九州・大阪・東京)にいます。

・今日の朝ごはんは(**ケチャ**)を食べました。

・泉は(熱かった・気持ちよかった・つらかった)です。

・修学旅行で一番楽しかった場所は(**グアム**)です。

③( )にあてはまる言葉を入れてみよう。

・僕は旅行が楽しすぎて(さわく・泣く・怒る)。

・おみやげに買ったお菓子を(食べた・食べてない)。

・学校/修学旅行、楽しいのは(学校・修学旅行)です。

・初めての**新幹線**。(早かった・遅かった・つまらなかった)

・今週で2学期も終わり。(さみしいな・うれしいな)

朝の課題 【質問に答える】

選択肢を提示することで、自分から主体的に取り組み、ことばを「吟味して選ぶ」習慣がついた。おまけの追加情報まで書こうするなど、コミュニケーションに対する積極性も育った。





## 課題の細分化を実施

**質問に答えよう**  
問題をよく読んでびったりの答えを書こう。

- ① 高等部2年3組の男子生徒は何人ですか？  
→ (4) 人です。
- ② 今日は作業学習。あなたの仕事は何ですか？  
→ 僕の仕事は (しほん) です。  
紙を切っています。
- ③ あなたが一番好きなおかずは何ですか？  
→ 藤原先生は、ハンバーグが好きです。  
僕が一番好きなおかずは (ステーキ) です。
- ④ 指導科のどのが好きですか？  
→ 矢吹奈子の (編) (髪型) (声) が好きです。
- ⑤ 昨日は数学で2とびの歌を歌いました。2とびは、  
→ 2、4、(6)、8、(10)、12、14、  
16、(18)、20、(22)、24、(26)、  
28、(30)と続きます。

**質問に答えよう**  
問題をよく読んでびったりの答えを書こう。

- ① 高等部2年3組の生徒は何人ですか？  
→ (7) 人です。
- ② 今日は数学の後は何の授業ですか？  
→ 数学の後は (ダブル) です。
- ③ あなたが一番好きなアイドルは誰ですか？  
→ 僕が一番好きなアイドルは (指原莉乃) です。
- ④ 矢吹奈子のどのが好きですか？  
→ 矢吹奈子の (編) (髪型) (声) が好きです。
- ⑤ 昨日は終業式の後、クラスでどこに行きましたか？  
→ 2年3組は (体育館) (グラウンド) (プール) に行きました。僕はグラウンドを (指原莉乃) 。
- ⑥ 僕の届には ( ) くんが居っています。

課題の細分化をし、選択肢からことばを選ぶ活動を毎日積み重ねるうちに、対象生徒の中にことばの「貯蓄」のようなものができたのか、当初のような質問形式で出題しても、こちらの発信をしっかりと受信して、適切な回答を書き込めるようになった。すばらしい成長である。

選択肢は当初、質問の数すべてすることで適切なものを選べるよう配慮した。その語少しずつ選択肢にも余計なものを入れたり、空欄を増やして自分で入れる欄を増やすことで、選択肢以外のことばも回答として書き込むことができるようになった。学習目標①「相手の発信を受信し、返答する力」ことばが育っているということがうかがえる。

## <学習目標②「自分のことを伝える力」について>

### 単元【自分のこと】

#### 実践当初

自分の状態や内面についての表現について、選択肢を用いて質問をすることで表現することは可能であったが、分からないことや否定や拒否、嫌悪については、すべて「いらない！」の一言で済ませてしまうことが多かった。コミュニケーションの拡充をはかるため、さまざまな状況を設定し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）も兼ねながら表現方法を積み上げてきた。

**じぶんのこと**

- ① 授業は地図本やiPadは (見ます・見ません)。
- ② 女子 (イレ)や女子の足はジロジロ (見せたり・見ます)。
- ③ 先生や友達のカバンは (勝手にさわります・勝手にさわりません)。
- ④ 授業中は、大きな声でおしゃべりを (しません・します)。
- ⑤ お友達をたたくのは (いいこと・わるいこと) です。
- ⑥ 叩かれた時には、藤原先生に (言います・言いません)。
- ⑦ すべての駅に止まるのは (特急・準特急・区間急行・多駅停車)。
- ⑧ 僕はあちゃんとき (河原駅・調布駅) の近くに住んでいた。
- ⑨ 急いでいる時は (特急・準特急・快速・区間急行) で行きます。



**こんな時どうする？**  
びったりのものを○でかこう。

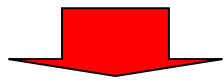
- ① 先生やお友達と話している時  
[ 声を出さず静かに聞く・電車のアナウンスをする ]  
※ヒント：相手に話し終わったらお話ししてOK
- ② あいさつをする時は  
[ 相手の顔を見ない・相手の顔を見る ]  
※ヒント：話をする時も相手を見よう。
- ③ 授業中は京王線の走る音が聞こえてきた。  
[ 窓まで行って見る・授業中だから見ません ]  
※ヒント：授業中、勝手に席を立つのはNG！！

**こんな時なんて言う？**  
びったりのことばにチェックをつけよう。☑。

- ① 雷の音がして、窓の近くから離れた時。  
こわいから、できるだけ見えないところに行きたいよね。そんな時は先生になんて言う？  
 「先生、雷が怖いので、ここから電車を見ます。」  
 「先生、雷が怖いので、席をかわりたいです。」  
 「先生、僕は平成18年うまれます。」
- ② 雷 授業中にiPadの充電が切れそうになった時。  
授業中に勝手に席を立つのはだめだね。  
 「先生、特急！」  
 「足元にお気をつけてください。」  
 「先生、バッテリーをかせてください。」

## 朝の課題 【自分のこと】

いずれはことばで自分の行動を統制できるようになることを目標に、さまざまな場面で使用する適切なことばや表現を日常的に積み上げた。当初は誤答が多かったが繰り返すうちに正答率が上がった。しかしながら、一問一答ドリルのような取り組みで正答率が上がっても対象生徒の「じぶんのことば」になるとは考えにくく、ヒントや理由を提示してそこから答えを導き出すように途中で出題方法を変更した。



### 理由とセットでことばを積み上げた結果

**自分のこと**  
質問に答えてみよう。

① あなたの好きな芸能人は誰ですか？  
僕は( **きんぎょ** )が好きです。りゆうは( **大さきい** )からです。

② あなたの一番好きな授業は何ですか？  
僕は( **国語** )が好きです。りゆうは( **音楽** )からです。

③ あなたの一番好きな映画は何ですか？  
僕は( **京王線** )が好きです。りゆうは( **中央線** )からです。

④ あなたの一番好きなものは何ですか？  
僕は( **雷** )が好きです。りゆうは( **雷** )からです。

<当初>  
りゆうについて述べることは難しく、関連事項を並べているだけだった。



**自分のこと**  
質問に答えてみよう。

① あなたの好きなアイドルは誰ですか？  
僕は( **矢吹奈子** )が好きです。りゆうは( **かわいい・おもしろい** )からです。

② あなたの一番好きな授業は何ですか？  
僕は( **家庭** )が好きです。りゆうは( **楽しい・おもしろい・きもちがいい** )からです。

③ あなたの一番好きなものは何ですか？  
僕は( **菓子パン** )が好きです。りゆうは( **たのしい・おもしろい・おいしい** )からです。

④ あなたの一番好きなものは何ですか？  
僕は( **雷** )が好きです。りゆうは( **うるさい・きもちわるい** )からです。

**自分のこと**  
質問に答えてみよう。

① あなたの好きなアイドルは誰ですか？  
僕は( **石原莉子** )が好きです。りゆうは( **かわいい** )からです。

② あなたの一番好きな授業は何ですか？  
僕は( **音楽** )が好きです。りゆうは( **楽しい** )からです。

③ あなたの一番好きなものは何ですか？  
僕は( **おまんこ** )が好きです。りゆうは( **おいしい** )からです。

④ あなたの一番好きなものは何ですか？  
僕は( **うさぎ** )が好きです。りゆうは( **菓子パン** )からです。

**こんな時どうする？**  
よく読んでびったりのものを〇でこまう。

①先生やお友達と話している時  
みんなお話を聞かないといけないうわ。だから、  
[ 電車のアナウンスをする ・ 声を出さず静かに聞く ]

②顔を見てあいさつされると、自分に言ってくれたと分かるよね。だから、あいさつをする時  
[ 逃げる ・ 相手の顔は見ない・相手の顔を見る ]

③授業中に京王線の音が聞こえてきた。うれしいな。授業中だからどうしよう。  
[ すぐに席から見る ・ 見たけど言わない ]

**じぶんのこと**

①先週は土曜日まで学校があった(大変でした・楽しかった)。

②僕は、おじいさんの人に見られるのは、( 好きです・好きではないです )。

③大きな声が( 好きです・こわいです )。だから僕は耳をふさぎます。

③先週の本曜日、久しぶりに雨が降り、雷が鳴りました。ゴロゴロと聞こえてくると、僕は( 不安・楽しい気持ち )になります。そして、( 選びたい・選ばない )気持ちになるのです。

**きもちのことば**

① 先週からの修学旅行。知らない場所のお泊りは( **楽しい** )です。

② インフルエンザになって修学旅行に行けなくなったら( **残念** )です。

③ 雷が落ちたらすごい音がします。考えるだけで( **こわい** )です。

④ インフルエンザは( **すき・こわい・楽しい** )です。病院に行くのも、検査も( **好き・嫌い** )です。学校をたくさん休むのは( **うれしい・悲しい** )です。

⑤ 僕が「女性の足」や「女子トイレ」と言うときは、( 僕を見てほしく・つまらない時 )です。

**【むずかしい時はここからえらぼう】**  
かない・楽しい・おもしろい・こわい・いや・さみしい・不安  
お父さん・先生・ともだち・恋人・アイドル・好きな人

**やってみよう**( )にびったりのことばを入れて文を作ろう。

①「寒い( **寒い** )。」「

②「今日は国語の授業がありますか？教えてください。」「昨日、国語の授業は( **お休** )。」「

③「今日の天気はなんですか？教えてください。」「今日の天気は( **日傘** )です。」「

④「修学旅行のお土産で何を買いたいですか？」「( **お菓子ゲーム** )を買いたいです。」「

⑤「新学期は誰に出すの？」「( **昔同** )先表に出します。」「

⑥「僕は何をして過ごす予定ですか？」「僕は( **矢吹奈子** )をして過ごす予定です。」「

### 朝の課題 【自分のこと】

自分の選んだことばとその理由がきちんとつながっている表現を完成させることが多くなった。

例えば

以前) 5日間の実習は(長い・**短い**)と思います。なのでもっと(長く・**短く**)実習したかったです。  
現在) 5日間の実習は(長い・**短い**)と思います。なのでもっと(長く・**短く**)実習したかったです。

自分の言動について、「理由」のようなものも伝えることで、周囲からの理解も深まり、それが次のコミュニケーションのきっかけになると私は考える。インクルーシブな環境では尚更で、周囲からの働きかけだけではなく、自分からの発信も必要とされるので、この活動は今後も継続し、日常生活の中やインクルーシブな環境の中での般化を目指していきたい。

### <学習目標③『引き継げる』支援の獲得』について>

具体的な成果物やエビデンスを残すまでには至らなかったが、対象生徒のキャラクター、もっている語彙力や表現力については、毎朝の課題や国語や数学などの教科学習を通してデータ化できた。可能であれば来年度以降も魔法のプロジェクトを通して継続的に関わりながら、ICT ツールを用いてこのデータを対象生徒自身が扱い、他者との関わりの中で、自分でモード替えをしながら選択して周囲に伝える手段を作っていきたい。



## その他エピソード

今年度は国語・数学の授業や毎朝の課題では Microsoft 社のアプリ「Whiteboard」をメインに使用した。このアプリは、授業においては、学習グループ全員の進捗状況や成果物を手元の端末1台で把握でき、個々のワークシートに丸付けやヒントを書き込むことができた。

対象生徒は登校後に身支度を済ませ、毎朝大体9時前後に自席で課題に取り組むというルーティンになっている。私はその日の課題の成果物を見て、次の日の課題を作ることが日々のルーティンになっている。

下の図は、10月27日（金）の朝の課題である。実はこの週に私は入院加療中であつた。しかし特に動きの制限もなかったため、朝の課題はオンラインで実施した。普段であれば、同じ教室にいて、課題につまづいている時などはすぐにサポートできる環境だったが、入院中なのでどの程度課題に取り組めるのか正直不安だった。しかしいつもと同じ内容量の課題を課し、オンラインで進捗具合を見守り、ペンの軌跡が止まったりした時にはテキストでコメントを入れながらやりとりしたところ、入院中の6回分の課題はすべて私が学校にいる時と同じように取り組むことができた。

The screenshot shows a Whiteboard app interface with several sections:

- 今日の予定 (Today's Schedule):** A table listing activities for the day of 10/27 (Friday). Activities include: 1. 日常生活の指導 (Guidance on daily life), 2. 保健体育 (Health and Physical Education), 3. 数学 (Mathematics), 4. 国語 (Language), 5. 食事・休み時間 (Meal/Break time), 6. 体育 (Physical Education), 7. 社会 (Social Studies), 8. 授業生活の指導 (Guidance on classroom life), 9. 下校 (時間 15分) (Dismissal (15 min)).
- きもちと表情 (Mood and Expression):** A section for checking mood and expression. It asks "こんな時はどんな顔になるかな? Oでかこみよう。" (How do you think you'll look in this situation? Circle O to mark it). It includes options like "うれしいかも" (Maybe happy) and "かなしいかも" (Maybe sad).
- じぶんのこと (About Me):** A section for sharing information about oneself. It includes text like "昨日は授業参観でたくさんの方が来ました。僕は昨日ずっと(作業中)で事務室の習室にいました。" (Yesterday, many people came to observe the lesson. I was in the office for the whole day because I was working.)
- こんな時なんて言う? (What do you say in such a situation?):** A section for practicing phrases. It includes options like "おはよう" (Hello), "大好き (チップ)" (Love you (chip)), "ギヤハハ" (Gyahaha), "こまったな" (That's a bother), "熱出ちゃった" (I got hot), "静かに" (Quietly), "おやすみ" (Good night), "痛いなあ" (Ouch).
- 表情のお勉強 (Expression Practice):** A section for practicing expressions. It includes a drawing of a person and a list of expressions to choose from.
- 描いてみよう (Let's draw):** A section for drawing. It includes a drawing of a person and a list of instructions like "写真を撮って、ふみきりをかいてみよう! 色もつけてね!" (Take a photo, draw the footprints, and color it!).

この期間、クラスの指導に当たっていた教員によると、「書き込まれるヒントやコメントをよく見て、時々ニコニコしながら課題に集中していましたよ」と聞き、非常にうれしく感じた。

対象生徒にとって、指導者や支援者が近くにいなくても同じように生活ができるというのは将来に渡って必要なスキルである。そのスキルを具現化できるのがICTツールであると実感した。今年度は、今までの実践の中で最もICTツールの有用性を感じることができた。同時に、対象生徒にとって、指導者や支援者は恒久的なものではなく、変化し引き継がれていくものである。音声言語では正確に伝えることが難しい対象生徒にとって、表現をデータ化し、そこから自分で選択して必要な情報を周囲に伝えていくことを可能にするものがICTツールであると私は考える。

今年度は常にインクルーシブ教育という視点を持ちながら場面設定して課題を設定してきた。活動する場所

は学校という一定の空間だったが、場面設定は電車の中、スーパーマーケット、コンビニ、病院、駅など、私自身や対象生徒の生活と包括的に関わる環境を想定して課題に取り組んできた。画面や課題の中では、日々の積み重ねで好ましい行動やことばを選択することが増えてきた生徒であるが、高等部での最大の行事修学旅行では、まさに「社会そのもの」の中に身を置いたことで、目に見える物、音などさまざまな刺激を絶え間なく受け、珍しく興奮状態が続いた。それでも対象生徒は混乱しているようには見えず、とてもよい表情で明らかに自分が置かれている「社会そのもの」に新鮮な驚きと楽しみを見出していることが分かった。この行事を通してはっきりと分かったことが、やはり特別支援学校における「インクルーシブ」視点をもつことの重要性である。授業やさまざまな活動の中で、練習を積み上げることは大切だが、それらは将来彼らが生きていく社会の中で「般化」できていく必要がある。学生のうちから、インクルーシブな視点を持ち、交流の機会を設けて実践的な活動をしていくことが必要なのだと実感した。

現実的にそれが難しいとしても、ICTを上手に活用することで、さまざまな人々とつながることが可能である。来年度も魔法のプロジェクトに参加できたら、対象生徒の学生生活残り1年で、インクルーシブな社会での適切な言動やコミュニケーションの獲得について研究していきたいと私は考える。